

【みずすまし構想】

農村地域の水質および生態系の保全のための取り組みの全体構想で、環境と調和した農業・農村をめざしています。この構想には「水・物質環境」「自然との共生」「住民参加」という3つの大きなテーマがあります。また、県下には12の「みずすまし推進協議会」があり、この協議会で作成した「みずすまし行動計画」を地域住民の参加により、実践活動を行うことで構想の推進を図ります。

【環境こだわり農業】

より安全で安心な農産物を生産し、消費者のみなさんに供給することとあわせて、環境と調和のとれた農業生産を進めることで、滋賀県農業の健全な発展と、琵琶湖等の環境保全を図ることを目的として、平成15年3月に「滋賀県環境こだわり農業推進条例」を制定。現在、この条例に基づいて、そのシンボルである「環境こだわり農産物（化学合成農薬と化学肥料の使用量を通常の5割以下に削減して、琵琶湖等の環境への負荷を削減する技術を用いて生産された農産物）」の生産拡大と流通促進に努めています。



【世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策】 ～滋賀らしい「農地・水・環境保全向上対策」～

農業・農村は、食料を供給するだけでなく、農業の営みを通して、琵琶湖などの豊かな自然環境や心やすらぎ美しい景観を守り、文化を後世の子どもたちに伝えるといった、様々な役割を担っています。近年、過疎化や高齢化、混住化の進行による農業構造の変化や集落コミュニティの脆弱化により、今までと同じ仕組みでこうした役割を發揮することが困難になりつつあります。

そこで、農地や農業用水、農村の豊かな自然環境を農家だけでなく様々な人たちの参加によって守る活動に対して支援を行います。



「魚のゆりかご水田プロジェクト」問い合わせ連絡先

ホームページアドレス：<http://www.pref.shiga.jp/g/noson/fish-cradle/>

滋賀県農政水産部農村振興課 にぎわう農村推進室
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1-1 県庁本館4階
電話：077-528-3962 FAX：077-522-4888
メール：gh01@pref.shiga.lg.jp

大津・南部農業農村振興事務所 田園振興課 農村環境整備担当
〒525-8525 滋賀県草津市草津三丁目14-75
電話：077-567-5415 FAX：077-564-2510
メール：gh35@pref.shiga.lg.jp

東近江農業農村振興事務所 田園振興課 農村環境整備担当
〒527-8511 滋賀県東近江市八日市緑町7-23
電話：0748-22-7722 FAX：0748-23-4912
メール：gh37@pref.shiga.lg.jp

湖東農業農村振興事務所 田園振興課 農村環境整備担当
〒522-0071 滋賀県彦根市元町4-1
電話：0749-27-2222 FAX：0749-24-6229
メール：gh32@pref.shiga.lg.jp

湖北農業農村振興事務所 田園振興課 農村環境整備担当
〒526-0033 滋賀県長浜市平方町1152-2
電話：0749-65-6620 FAX：0749-64-1597
メール：gh33@pref.shiga.lg.jp

高島農業農村振興事務所 田園振興課 農村環境整備担当
〒520-1621 滋賀県高島市今津町今津1758
電話：0740-22-6034 FAX：0740-22-4393
メール：gh34@pref.shiga.lg.jp

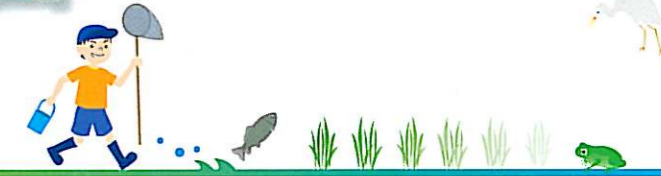
発行／環境省近畿地方環境事務所・滋賀県農政水産部農村振興課
発行年／平成21年9月



この印刷物は、「計画的に管理された森林」の木材を利用したFSC認証用紙を使用しています。また、揮発性有機化合物の見直しを促した大豆インクを使用し、印刷は有害な廃液を排出しないナシ印刷を採用しています。



魚のゆりかご水田プロジェクト



湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻そう!



魚のゆりかご水田プロジェクトとは？

田んぼに魚たちが飛び跳ね、青々とした田園に白サギが舞う。そして、田んぼには網を持って魚つかみをする子どもたちの歓声。その光景を暖かい眼差しで見つめる農家。こんな光景が今、復活しようとしています。

農家、地域、そして何より生きものにとって大切な「魚のゆりかご水田」。人や生き物が安心して暮らせる田んぼの環境を取り戻すプロジェクトです。



湖岸の田んぼと魚の関係

昭和40年頃まで

- 琵琶湖水位の影響を受け易く、浸水被害にあったり、農作業に田舟などを使わざるを得ないなど、農家は大変苦労されていました。
- 湖岸の水田は、琵琶湖とつながりエサのプランクトンが豊富なため、フナ・コイ・ナマズ等の産卵繁殖に格好の場所でした。



提供：琵琶湖博物館 昭和29年藤村和夫氏撮影

田んぼと水面の関係に注目！



昭和40年代から現在にかけて

- ほ場整備により、生産性の向上や農家経営の改善が図られました。
- 一方で、田んぼから畑としても利用できる乾田化のために水路を深くしたことが、魚が田んぼに遡上しにくくなった一因とされています。

未来

- 「魚のゆりかご水田プロジェクト」に取り組み、農業生産性を維持しながら、琵琶湖から水田へ魚が産卵にやってきて、稚魚が育ちやすい水田環境を取り戻します。

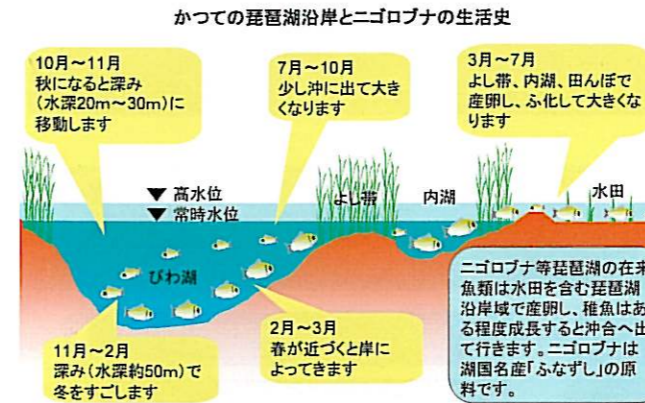
少し昔の農村の風景を蘇らせます

今だから「魚のゆりかご水田プロジェクト」！…そのワケは？

Q&A

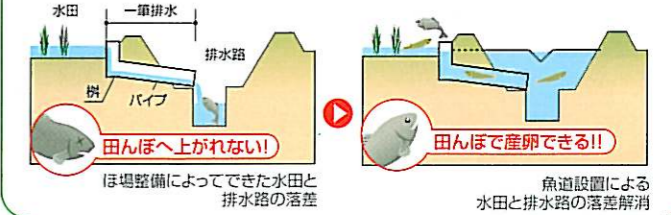
Q1. 魚のゆりかごってどういう意味？

A1. 昔は、琵琶湖と田んぼの間を魚が自由に往き来していました。産卵期になると、魚は田んぼで産卵し、ふ化した稚魚は、エサとなるプランクトンが豊富で外敵が少ない田んぼですくすくと育ち琵琶湖へ帰っていました。このため、田んぼは「魚のゆりかご」と言われています。



Q2. 水田を魚の産卵・成育の場として再生するにはどうするの？

A2. 魚道(魚のとおり道)の設置により排水路の水位は階段状に田んぼの高さまで上がり、琵琶湖から上がってきた魚は、一筆排水を使って田んぼへ入り産卵することができます。

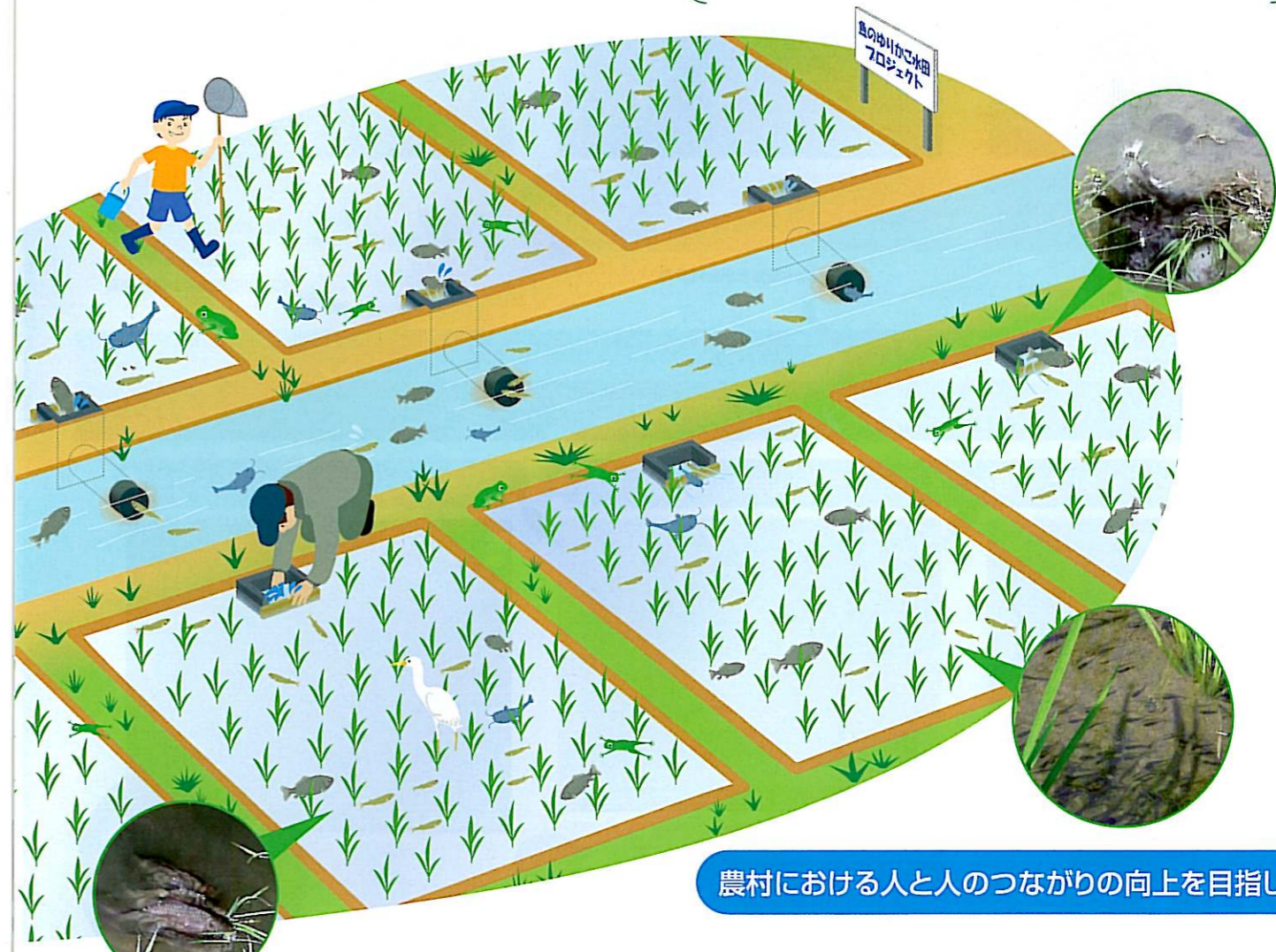


Q3. 魚のゆりかご水田に取り組むとどうなるの？

A3. 魚類の産卵繁殖場としての水田の再生をはじめ、農産物のブランド化や環境学習等イベントを通じた人と人とのつながりの再生など多様な効果の発揮による農村振興が期待できます。



小学生の環境学習



農村における人と人とのつながりの向上を目指します

魚のゆりかご水田プロジェクトの 効果

琵琶湖から魚が遡上できる魚道により、田んぼを昔ながらの「魚のゆりかご」にする取り組み。その効果として、生態系の再生から地域の環境意識の向上、地域コミュニティの活性化、そして農産物のブランド化などが期待できます。

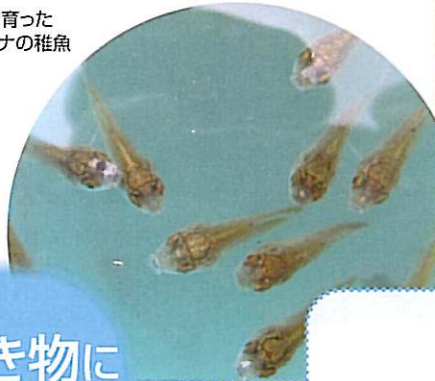


湖国名産ふなずし

魚のゆりかご水田は、五方によし!!

魚道の設置により、田んぼを湖魚の産卵成育場として再生できます。ちなみに田んぼは、エサが豊富で外来魚がいないため、稚魚の生残率(稚魚数/産卵数)は約30%と高く、稚魚の成育に適した環境です。

田んぼで育った
ニゴロブナの稚魚



生き物によし

魚道で排水路の水位を堰上げることにより、田んぼの濁水を抑えることもできます。代かき前から堰上げると効果大です。



代かき前から堰板を設置

琵琶湖によし

子供によし

農業が機械化され、子どもたちが田んぼや畑に近づく機会が減りました。田んぼに魚がいることで、子どもたちも田んぼ、米づくりに興味を持つようになります。



親子で魚道整備に参加



地域によし



魚道づくりや観察会など、多くの人々が田んぼを訪れるようになり、人と人との交流が生まれ、農村に世代をこえて、地域をよそへ「人々のにぎわい」が戻りました。

農家によし



魚のゆりかご水田米

「魚のゆりかご水田米」として付加価値の高い米を生産し、ブランド化を目指します。



魚のゆりかご水田プロジェクトの 実施場所

琵琶湖周辺の田んぼを魚のゆりかご水田として再生させる取り組みを進めています。農家や住民、水土里ネットほかNPOなど多くの人々が手をつなぎながら、人と生き物がにぎわう農村地域の活性化を図っていきます。

取り組み位置図(平成18年~平成21年)



★写真提供:琵琶湖博物館

番号	実施箇所名	番号	実施箇所名	番号	実施箇所名	番号	実施箇所名
①	草津市志那中町	⑥	近江八幡市北之庄町	⑪	彦根市石寺町	⑰	高島市今津町桂
②	野洲市吉川		近江八幡市白王町		彦根市三津屋町	⑱	高島市今津町浜分
	野洲市菟浦	⑦	近江八幡市島町	⑫	米原市長沢	⑲	高島市新旭町饗場
③	野洲市安治	⑧	東近江市栗見出在家町	⑬	米原市宇賀野	⑳	高島市新旭町針江
	野洲市須原	⑨	彦根市新海町	⑭	長浜市益田町	㉑	高島市安曇川町四津川藤江
	野洲市堤	⑩	彦根市南三ツ谷町	⑮	長浜市安養寺町		
④	野洲市比留田	⑪	彦根市甲崎町	⑯	湖北町津里		
⑤	近江八幡市佐波江町			⑰	高島市マキノ町知内		

魚のゆりかご水田カレンダー

滋賀県では、農村地域の水質と生態系保全のための取組の全体構想である「みずすまし構想」の一環で「魚のゆりかご水田」を進めています。これからも、生命あふれるゆたかな「里」の環境を子や孫に引き継いでいくため住民参加による魚道づくりや、魚の生息環境に配慮した農業への取り組みを推進します。

稲作曆にあわせ、魚のゆりかご水田に必要な水管理の方法や、魚のゆりかご水田で見ることができる魚の遡上・産卵、稚魚の成育の様子について、ニゴロブナのニゴロ君と農家の鮒夫君が紹介します。



10月

魚道設置

4月

魚道の点検・堰板設置

5月

代かき・田植え

きめ細やかな水管理(田んぼの深水管理や小雨時の一筆排水堰板操作)

産卵できる田んぼはどこ?



魚が田んぼで産卵できるよう、みんなで魚道をつくります。

琵琶湖の水もきれいにしな



魚道には、田んぼからの濁水を抑える機能もあるので、代かき前に堰板をはめます。

田んぼで長く過ごしたいな



田植え時期をそろえます。除草剤をまく場合は、時期や回数などに配慮します。

うまく上れるかな



少しの雨でも遡上しやすい魚道の仕組みとなっています。

写真提供:滋賀県水産試験場

田んぼへ早く入りたいな



魚が田んぼへ入りやすいような一筆排水の管理を行います。

写真提供:滋賀県水産試験場

田んぼに入るとすぐに産卵するよ



人工魚巢に産み付けられたフナ卵

写真提供:滋賀県水産試験場

6月中旬

きめ細やかな水管理

溝切り等

約2.3日で卵からふ化するよ



田んぼには魚の成長に必要なプランクトンがたくさんいます。

写真提供:(財)滋賀県水産振興協会

田んぼって居心地がいいね



中干しまでは田んぼの水を深めにしておきます。

まもなく田んぼから出ていく時期だよ



稚魚が田んぼから排水路へ流下できるよう溝切りなどを行います。

田んぼで育った稚魚が無事に琵琶湖へ流下できるよう皆さん協力して下さいね



稚魚が琵琶湖へ流下できるよう魚道の堰板をはずします。



農家や地域の皆さんどうもありがとう

